

● BIM・FM研究部会

BIM・FMガイドブックの
概要について

猪里 孝司

BIM・FM研究部会 部会長
大成建設株式会社 設計本部
まちづくり・建築計画室長
認定ファシリティマネジャー



BIM・FM研究部会は、2012年9月の発足以来、JFMA版BIM・FMガイドラインの発行を目標の一つとして活動しており、第一段階として2015年3月に「BIM・FMガイドブック」を発行する予定である。

BIM (Building Information Modeling) は、建物に関連する情報をライフサイクルにわたって作成・更新し活用しようという考え方であり、ライフサイクルコストの低減や省エネルギー化の推進、建物情報提供による利用者へのサービス向上などさまざまな効果がある。BIM先進国といわれている国々ではこのような考えのもと、FMでのBIM活用が進んでいる。わが国では2014年3月に国土交通省からBIMガイドラインが公表されるなど、設計者や施工者の間ではBIMが普及しつつあるが、FM業界でBIMが認識、理解されているとはいえない。

当研究部会ではこの状況を改善したいと考え、FMに携わる方々がBIMに興味を持ち、FMでBIMを活用するきっかけとなるようなガイドブックを作成している。

ガイドブックは、7章と付録、コラムという構成である。以下にその概要を示す。

1章では建物のライフサイクルにわたる情報マネジメントという観点からBIMを分かりやすく解説している。

2章はFMからみたBIMの特徴、効果、可能性について述べている。

3章ではFMでのBIM利用に積極的に取り組んでいる海外のBIM・FMガイドラインと活用事例を紹介している。

4章では国内のBIMガイドラインとFMでBIMを活用している先進的な事例を詳しく紹介している。

5章はBIMを活用するための手引となるもので、何を準備しどのように実行していくかを解説している。

6章ではBIMを活用するための課題とそれに対する提言をまとめた。BIMは大きな可能性を持っているが、課題も多い。FMでのBIM活用が普及するには、各自の取り組みとともに業界や社会として環境を整備する必要がある。それらを提言としてまとめた。

7章ではBIMを活用した新たなビジネスモデルを提案している。BIMそのものやBIMによって提供される情報を利用することの可能性を述べている。

付録では、BIMに関する用語やツールをまとめ、参考文献を挙げている。

コラムはBIMやFMに造詣の深い識者の方々に執筆いただいた。FMに携わっている方々のBIMへの期待や可能性、BIMに関わっている方々の思いが詰まっている。ガイドブック本文とは異なった視点や実際に利用した経験などから、読みやすく示唆に富む内容で一読の価値がある。

このガイドブックは建物所有者やファシリティマネジャーのためのBIM入門書といえる。ぜひ、このガイドブックを手に取りBIMの可能性を実感するとともに、FMからBIMへの疑問、要求、要望を出して欲しい。それに答えることがFMとBIM双方の発展と高度化につながる。